

## **企画セッション 15:10～16:10**

**司会：庄司 卓郎（産業医科大学産業保健学部）**

DS-1 15:10 ～ 15:35 「活かそう！」人間工学専門家

○井出有紀子 人間工学専門家認定機構(CPE)、日本電気(株)

○井出 有紀子（人間工学専門家認定機構(CPE)、日本電気(株)）

八木 佳子（人間工学専門家認定機構(CPE)、(株)イトーキ）

DS-2 15:35 ～ 16:00 編集委員会企画：人間工学誌に投稿しませんか？

○榎原 毅（産業医科大学／人間工学誌編集委員会）

村木 里志(九州大学／人間工学誌編集委員会)

## **特別講演 16:10～16:40**

**司会：庄司 卓郎（産業医科大学産業保健学部）**

KS 16:10 ～ 16:40 \* ヒューマニスティックな社会課題解決のかたち：

High Touch & High Tech

○河村 洋子（産業医科大学産業保健学部安全衛生マネジメント学）

# 「活かそう！」人間工学専門家

井出 有紀子\* \*\* 八木 佳子\* \*\*\*

\*人間工学専門家認定機構(CPE), \*\*日本電気(株), \*\*\* (株)イトーキ

## How to use the Certification Program for Professional Ergonomists

Akiko IDE \* \*\* Yoshiko YAGI\* \*\*\*

\*Committee on Certified Professional Ergonomist, \*\* NEC CORPORATION, \*\*\*ITOKI CORPORATION

### 1. 認定人間工学専門家資格制度とは

本制度では、『人間工学の知識、技術、問題解決能力を十分に持ち、それを実践できる人材』に対し、(社)日本人間工学会(以下JES)が資格を認定しており、2003年8月に発足した。その後本資格は、2007年5月に国際人間工学連合(International Ergonomics Association : IEA)の認証も取得しており、米国のBCPE(Board of Certification in Professional Ergonomics)や欧州のCREE(Centre for Registration of European Ergonomists)とともに国際的な人間工学の専門家として通用する資格となっている。

### 2. 認定人間工学専門家の資格区分

表1 認定人間工学専門家資格区分

	主に取得される人	必要学歴	日本人間工学会 会員資格
認定人間工学 専門家 (IEA 認証ライセンス)	企業内などでの 人間工学エキスパート	大卒以上	不要
認定人間工学 準専門家	大卒または大学院 在籍者	大卒以上	不要
認定人間工学 アシスタント	実務をしている方	6単位以上の 専門教育	不要

表2 各支部人数に対する専門家人数  
(全区分合計)の構成比(2022. 10. 11時点)

	JES 支部総数	CPE全体						JES数	支部人数に 対する構成比
		CPE総数	内訳				JES数		
			専門家	準専門家	アシスタント	シニア			
北海道支部	27	11	2	8	0	1	2	7.4%	
東北支部	44	4	3	1	0	0	3	6.8%	
関東支部	698	227	133	77	9	8	114	16.3%	
東海支部	120	30	13	11	4	2	15	12.5%	
関西支部	224	104	39	64	1	0	40	17.9%	
中国・四国支部	90	22	12	10	0	0	13	14.4%	
九州・沖縄支部	61	13	6	4	2	1	7	11.5%	
合計	1264	411	208	175	16	12	194	15.3%	

※シニア：2018年11月1日よりシニア会員制度を実施。年齢70歳以上、CPE継続15年以上などの条件を満たし希望される方を、書類審査により「シニア認定人間工学専門家」として認定している。

認定人間工学専門家の資格区分を表1に示す。専門家資格は専門教育経験年数や実務経験レベルに応じて3段階に資格を区分している。また、2022年10月11日現在の認定者数は認定人間工学専門家 208名、認定人間工学準専門家 175名、認定人間工学アシスタント 16名、シニア認定人間工学専門家 12名である。これらの地域別の内訳を表2に示す。表2より、九州・沖縄支部は、会員数に対するCPE保有率が、全国平均そのものが約15%と低いにもかかわらず、さらにそれに比べて若干少ないことがわかる。専門性がある方の人数は多いはずなので、実態との乖離が大きいように感じる。

### 3. 人間工学専門家資格の認定基準

※詳細はホームページ参照  
<https://www.ergonomics.jp/cpe/>

#### 3.1 認定人間工学専門家

認定人間工学専門家は一定の基準を満足する人間工学の実践者であり、その基準は大学などでの教育歴と業務歴によって異なる(表3)。

表3 認定人間工学専門家資格の基準

	専門教育 受講年数	実務 経験年数	事例提出	筆記 試験	面接 試験
①	3年	2年	不要	要	要
②		7年	不要	要	要

#### 3.2 認定人間工学準専門家

大学で人間工学関連の専門教育を受け、これから認定人間工学専門家の資格取得を目指している人、または大学を卒業後、人間工学関連の仕事に携わり、将来認定人間工学専門家の資格取得を目指している人を対象とした資格である。以下に示す2条件のいずれかの基準を満たし、書類審査によって認定される。

- 1) 大卒かつ3年以上大学にて専門教育を受講
- 2) 大卒かつ実務経験5年以上

### 3.3 認定人間工学アシスタント

短大・専門学校・企業研修等で人間工学に関する専門教育を受講し、人間工学の学びに関心を持つ人、実務で人間工学を活用したいと思う人を対象とした資格である。以下に示す2条件のいずれかの基準を満たし、書類審査を経て認定される。

- 1) 短大・専門学校等にて専門教育を受講
- 2) 企業研修などで上記1)同等の教育を受講

## 4. 準専門家資格

本制度の最上位資格の専門家はIEAに認証されている資格だが、段階的にステップアップができるという他国にない特徴を持っている。

準専門家資格は、大学卒業と同時もしくは修士在学中に取得が可能であり、自身が社会に役立つ人間工学を専門に学習した経歴を周囲に理解してもらうことを可能としている。また、準専門家資格を所有者は、専門家へのステップアップに対しての優遇を受けられる。将来の目標となる専門家を見据え、継続的に学び、そして自らの知識を活用していくモチベーションにもつながっている。

## 5. 資格取得のメリット

本資格を有することにより大きく分けて以下の3つのメリットがある

- 1) コミュニティの形成
- 2) 専門性の明示や活用
- 3) 仕事の獲得

この3つの項目について、認定人間工学専門家機構の活動例を含め詳細を説明する。

### 5.1 コミュニティの形成

・CPEセミナー/サロン/見学会

昨今、多くの情報はネット上に溢れており、資格の有無や学会員かどうかに関わらず、興味関心のある情報は手軽に入手可能である。しかし、人間工学の専門家がどのようにして専門性を発揮したのか、どのような苦労があったのかなどのCPEとしての活動に有効な情報は、直接話をすることで得ることができる。本機構では、人間工学の実践に関わっている現場に依頼し、そこでの見学と意見交換の場を設けている。さまざまな領域の専門

家の視点で意見交換を行い、新たな発見や交流が生まれている。

2020年以降、対面での見学会やサロンは実施できていなかったが、COVID-19の状況なども見ながら徐々に対面イベントも復活させていく予定である。と同時に、対面イベントの代わりに実施したオンラインセミナーやワークショップは、特に首都圏以外の会員から好評だったこともあり、今後はオフライン・オンラインの双方の良さを活かす交流機会を検討したい。

### 5.2 専門性の明示や活用

CPE活用の具体例として、以下の3件を示す。

- ・社内での人間工学関連プロジェクトの立ち上げ提案時に、必要性や有効性を説明し、周りを納得させる必要がある。その際、「有資格者の提案と説得」で実現できる。
- ・社内外を対象としている人間工学関連業務の遂行の際、プロジェクトとしては認知されていても、個人として資格を有しているかどうかで、顧客からの信頼が違う。そのため、有資格者であることで、個人の成果（業績評価）がアピールできる
- ・元々の専攻は違うが、途中から人間工学関連業務に従事するようになった場合、学位等ではなく自分の専門性を客観的に示すことができる。

### 5.3 仕事の獲得

CPEを活用して仕事を獲得する例を以下に示す。

- ・就職（転職）の際、最近多くのビジネスで求められる「顧客視点」について、自己主張だけでなく、客観的に「顧客視点」を有していると認められ、転職に成功した。
- ・アジア諸国で、人間工学専門家資格を持っていることが国のプロジェクト参加の条件としているところもある。これはCPEにとっては大きなビジネスチャンスとなる。

## 6. さいごに

本制度は、人間工学実践者が自身の人間工学活動の更なるレベルアップの機会を提供するだけでなく、有資格者が業務上のメリットを享受できる仕組みも提供している。今後、より一層有資格者が増え、本専門家のメンバーが中心となり、様々な分野で人間工学を活用したより良い社会づくりに貢献していくこと願っている。

## 人間工学誌編集委員会企画：人間工学誌に投稿しませんか？

○榎原 毅（産業医科大学／人間工学誌編集委員会）  
村木 里志（九州大学／人間工学誌編集委員会）

**Invitations to submit your valuable manuscript to the Japanese Journal of Ergonomics!**  
**Takeshi EBARA (The University of Occupational and Environmental Health, Japan, Japanese Journal of Ergonomics Editorial Board)**

**Satoshi MURAKI (Kyushu University, Japanese Journal of Ergonomics Editorial Board)**

### 要旨

日本人間工学会が発行する「人間工学」誌は1965年に創刊され、国内の人間工学研究を扱う最も歴史あるジャーナルのひとつです。科学技術復興機構(JST)による国内の重要な知的財産の保存事業において、国内雑誌500誌のひとつとしても選定されています。2020年より新たな運営方針「投稿したいジャーナルを目指して」を掲げ、新査読方針「石を拾うことがあっても、玉を捨てる事なかれ」により査読基準の見直しや査読運用の改革を進めてきました。本企画では新しくなった査読制度・査読方針や査読パフォーマンスなどの現状を紹介し、学会員の皆様からご意見・ご質問を頂き、意見交換をする場としたいと思います。論文投稿をお考えの方、しばらく人間工学誌へ投稿していない方、論文投稿に際し質問したいことがある方など、お気軽に当日はご質問ください！皆様と一緒に、よりよい学会誌の方向性についても意見交流ができればと思います。

# ヒューマンスティックな社会課題解決のかたち： High Touch & High Tech

河村 洋子(産業医科大学 産業保健学部)

**Humanistic Solutions to Social Problems: High Touch & High Tech**  
**High Touch & High Tech**  
**Yoko KAWAMURA**  
**(University of Occupational and Environmental Health, School of Health Sciences)**

## 要旨

私たちが生活を送る現代社会は、情報、物流など、生活のさまざまな場面で技術が発達しています。おかげで、私たちの日常生活は非常に便利で快適です。一方、社会は非常に複雑になり、全体として多数の Complexity Adoptive Systems (CAS, 複雑適応系システム)) で構成されていると考えられます。したがって、私たちが向き合う社会的な課題もとても複雑であると言えます。

私たちが社会的な課題に向き合い解決策を感上げるために、科学的な検証や実践に取り組みますが、その目的は「多くの人にとって住みよい世界」をつくりたいからと言えるのではないでしょう。このような科学的な取り組みにおいて、数字や統計に基づく直線的なアプローチは重用されます。なぜなら、客観的でわかりやすく明確であるが故に、普遍的あるいは本質的な問題構造や解決策を導き出すと考えるからです。数字や統計データに基づく直線的なアプローチは、社会問題に直面する私たちに方向性を示し、社会（世界）をよくするための有用なアイデアを私たちに提供してきました。一方で、現実の世界は複雑で、直線的に動いているわけではなく、直線的なアプローチに基づく知識は、現実の世界の問題解決に容易に適用できない可能性があります。また、直線的なアプローチでは、問題の中心にいる個人の顔が見えなくなってしまうこともあるでしょう。より効果的な解決策は、直線的ではなく、むしろ非直線的な思考方法から生まれる傾向があると言えるでしょう。また、非線形的な考え方は、私たちに社会問題を理解する上でのマインドフルネスを促し、ヒューマンスティック（人道的、人間的な）を解決策へと導いてくれる可能性があります。

このような前提のもと今回の講演では、現代社会の複雑な社会問題に対する解決策をより良い方向に導く、High Touch をHigh Techに癒合させることについて、考えるような素材を提供したいと考えています。